

ウボォーギンの転生先は兵藤一誠！？

鬼塚虎吉

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

鎖野郎ことクラピカに殺されたウボオーギンは眼を覚ますと、真っ黒な空間にいた。

そこで出会ったのは赤龍帝ドライグと名乗る赤いドラゴンだった

…!!

目次

## 憑依転生

ここはどこだ？

俺は確か鎖野郎と闘って死んだはずだ、じゃあ何で俺はこんな真つ暗な所にいるんだ？

そう思いながら周囲を見渡していると、突然この暗い場所に炎が噴き出しやがった!!

「何だこりや、一体どうなつてやがんだ!？」

俺がそう言っていると、突然俺以外の声が聞こえてくる。

『お前が今回の相棒か?』

その声が聞こえてきた方向に目を向けると、そこにはおとぎ話に出てきそうな赤いドラゴンだった。

「何だ、テメエは?それにここは一体どこなんだ?」

俺がそう問いかけると、ドラゴンはこう言ってくる。

『ここは相棒の精神世界だ、心の中と言った所か。そして、俺の名前は赤き龍の帝王・赤龍帝ドライグ、お前の左腕にいるものだ。』

ドライグと名乗ったドラゴンがそう言った後、俺の左腕がいきなり燃え出した。

「おおおおおおおおおおおおおお!!」

俺は驚きを帯びた声を上げると、左腕には赤い籠手が身についていた。

「なんだこりや?」

俺は疑問に思いながらその籠手を触ってみたりしていると、ドライグが話しかけてくる。

『その名前は「赤龍帝の籠手（ブーステッド・ギア）」、その籠手には俺の力が宿っている。』

俺はその言葉を聞いた瞬間、ドライグに問いかける。

「おい、そりやあどういう事だ?お前の力つてのはどんなのだ?」

俺がそう言うと、ドライグは自分の力についてこう言ってくる。

『俺の力は〈倍加〉、〈譲渡〉の二つだ。』

それを聞いた俺はドライグにこう言った。

「おいおい、そりやあどういう事だ？俺にとっては望まねえ能力だぜ。」

それを聞いたドライブはこう言ってくる。

『それは何故だ？』

そう言ってくるのに対して、俺ははつきりと言った。

「俺は俺自身の力で強くなりてえんだ、他の奴の力を借りて強くなつたんじゃ意味がねえんだよ!!」

俺がそう言った後、ドライブはこう言ってくる。

『そうか、相棒の言葉にも一理ある。だが、俺を宿している以上力を呼び寄せる。』

ドライブの言葉に対して疑問に思った俺は問いかける。

「どういう事だ、その力を引き寄せるってのは？」

俺がそう言うと、ドライブはこう言ってくる。

『つまり、強者が集まってくると言うことだ。』

それを聞いた俺からは笑みが零れてしよすがなかった。

「最高じゃねえか、強え奴らが集まってくんだろ？久々に愉しくなりそうじゃねえか!!それに俺が最強になるために力を試すための相手までいるなんてよお、嬉しくなっちゃうぜ!!」

そう声を上げると、ドライブがこう言ってくる。

『今回の相棒はやけに好戦的だな。』

そう言いながらドライブは笑っている。

それを見て俺は更に笑みを深める。

すると、女の声が空間全体に響いてくる。

『イツセーったら、いつまで寝ているのかしら？』

それを聞いた俺はこう呟いた。

「今の俺の名前はイツセーって言うのか…、せいぜい愉しませて貰うぜ!!」

こうして、俺の新しい人生が幕を開いた。